

## 2013年度 こひつじ診療所 事業計画

院長 武井 陽一

小回りのきく精神科・心療内科中心の診療所として、地域に密着しつつ特色のある福祉医療活動を、ひき続き実践、展開していく。

### 1. 児童精神科、発達障がい者にも対応できる精神科、心療内科として診療活動を続けていく。

看護師（常勤1名 非常勤1名）、精神保健福祉士（2名）、臨床心理士（非常勤3名）、教師（非常勤1名）たちと共に、前年に続いて午前8時前より開始し18時前後まで、40分ほどの昼休みを除いて、絶えることなく診察を続けていくことになると思われる。初診診察には時間を確保するように努めていきたい。特に火曜、木曜発日午前は児童の初診として半日で3名ずつ時間をかけて診察していく。

今年度も、通院患者が時間外や休日に、電話による相談が可能なように、患者にあらかじめ知らせた上で、携帯電話で対応できるようにしていく。

看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、教師との連携をひき続き大切にしていく。診療スタッフ以外に、背後から「まきばの家」のスタッフたちとの協力が得られていること、さらに、豊かな自然環境、動物たちに感謝しながら、この1年も歩みたい。

### 2. 先のことを見通しながら、「ディアコニア」「まきばの家」「こどもの家」により連携するためのあり方について模索していく。

「こどもの家」「まきばの家」で必要とされる児の診察、フォローをひき続きおこなっていく。

「ディアコニア」の入所者も必要な方の診察をおこない、各施設スタッフの相談にも応じていく。今年度も「まきばの家」の症例検討会に、診療所スタッフたちも可能な限り参加していく。「まきばの家」以外の児童養護施設、自立援助ホーム、乳児院の職員などとの交流も「まきばの家」の職員と共に深めていく。

### 3. ひき続き比較的小規模な地域（袋井市とその周辺地域）において、福祉・教育・医療連携の可能性を、特に養護が必要な発達障がいなどの子どもたちを中心に据えながら模索していく。

袋井市と掛川市の特別支援教育支援チームの委員長を今年度も務める予定である。

静岡県西部の就学指導委員会と袋井市の就学指導委員会の委員も継続していく。

今年度も袋井市のしあわせ推進課、教育委員会、保健センターが、横断的包括的に連携する子どもの事例検討会に参加する（6回）。

2010年4月より、袋井特別支援学校磐田分校の精神科医師として校医を勤めているが、ひき続き、袋井特別支援学校の全体に在籍する子どもたちのために教師からの相談にも応じていく。

### 4. 日本キリスト者医科連盟静岡部会の例会を、ひき続き、可能な範囲でデンマーク牧場福祉会と共催し、今年度は3回程度、土曜日の午後、「まきばの家」を会場にして講演会を開催していく。